



●「おぎゃあと生まれる 地域の魅力」

古いものに新しさを発見し、新しいものに古びの味付けをほどこす。この二つの作業を、奈良の暮らしや自然の細部にまで目を向けながら試みるのが、「生活観光」プロジェクトです。

主役は学生です。教室で奈良を学んだ学生がまちや森に出かけ、そこでいわば「助産師さん」のような仕事をするはず。母なる地域と一緒に呼吸をしたりさすったりして生まれてくるのが「地域資源」という名の赤ちゃん。学生には県外出身者もたくさんいます。外から来て奈良で生活するからこそ見える奈良の問題点や魅力を見つけてくれることでしょう。地域の皆さんには、そんな学生を温かく、時には厳しくご指導いただければ幸いです。

生活観光現代GP推進委員
文学部准教授 小川伸彦



発行元
奈良女子大学社会連携センター
生活観光現代GP推進室

〒630-8506 奈良市北魚屋西町
Tel/Fax : 0742-20-3991
Email : gp-gendai@cc.nara-wu.ac.jp
HP : http://www.nara-wu.ac.jp/gp2007/

ナラブ

Vol.3

平成20年6月30日

平成20年度の取り組みについて

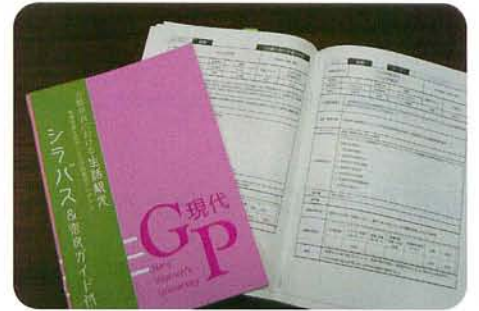
本年度は、コア科目 11 科目、関連科目 16 科目、計 27 科目を生活観光現代GP科目として位置づけ、地域資源の発掘・再評価を進める3テーマと、観光設計と情報発信を進める1テーマ、計4つのテーマに沿った取り組みを行っています。

生活観光現代GPのテーマと平成20年度前期現代GP科目

テーマ	科目名
導入科目	奈良のくらしと文化
基礎科目	テーマ1：古都奈良の地域資源を現代的視点から学ぶ
	人文地理学概論A
	歴史地理学概論
	言語文化表現論講読I
	テーマ2：奈良の自然と景観を再評価する
	社会情報学専門演習I
	空間計画のための自然環境科学
	テーマ3：生活環境を再評価する
	安全・安心のまちづくり実践講座
	24時間テレビスタッフ体験講座
世界遺産と地域計画	
奈良の食をさぐる	
発展科目	テーマ4：生活観光の設計と情報の発信
	生活観光情報発信講座A
	文化発信の企画力を付けるA

●生活観光現代GPシラバスの作成

4月のガイダンス時に「生活観光現代GPシラバス」を全学生に配布しました。現代GPの趣旨や生活観光の考え方、授業の履修方法や平成20年度に開講する全27科目の授業概要、そして奈良の情報（地元情報誌、ミュージアム、伝統的なまつり、近隣マップ）を1冊にまとめています。このシラバスを片手に、様々な分野から、奈良の生活観光の発掘・再評価・発信に取り組んでもらいたいです。



●女子大周辺商店街マップ・きたまちマップの発行

大学に隣接する商店街や周辺の店舗を紹介した「女子大周辺商店街マップ」と、きたまちの地域資源を紹介する「きたまちマップ」（「買う・食べる」「史跡・由緒」「景観・建物」という3種類1組のガイドマップ）を発行しました。これらのマップは、平成19年度現代GPの取り組みの一環として、学生が中心となり作成したものです。4月のガイダンス時に本学の学生へ配布するとともに、マップ作成に協力していただいた地域や店舗の方々にも配布しました。



「商店街マップ」については、花芝商店街・東向北商店街のご協力により、マップや商店街の利用に関するアンケートに回答した学生に、商店街で利用できるクーポン券を提供していただきました。

これを機会に、大学周辺の身近な資源の発見や店舗の利用につながればと考えています。両マップともに、まだ部数に余裕がありますので、興味のある方はご連絡下さい。

<平成20年度前期コア科目の取組>

●奈良のくらしと文化

大学が立地する奈良に対する理解を深めることを目的とし、生活文化学科・住環境学科の教員が専門分野から講義を行っています。

本年度のテーマは、「奈良の町並みとまちづくり」(増井正哉)、「奈良の世界遺産」(上野邦一)、「奈良の古代都市」(山本直彦)、「奈良と服飾」(岩崎雅美)、「奈良と防災」(野田 隆)です。平城京であったこの地で学び、近辺に世界遺産のある素晴らしい環境にいることを再認識し、さらに深く学びたいという学生からの意見が挙がっています。

授業後半には、ゲストスピーカーを迎えて奈良の防災に関する講義が行なわれます。想定される地震被害や地震防災対策の方向性を理解し、日頃から地域や家庭での地震への備えの大切さを再評価します。



●安全・安心のまちづくり実践講座

今年度は、「防災」の視点から大学周辺地域の生活・観光環境の現状を調べます。まず、「観光と防災」について政策・技術面から理解するために講演会を実施しました。第1回目は、奈良県知事公室防災統括室の北林義将氏に、奈良県における地震災害を想定し、通勤・通学者、観光客の帰宅支援に関する取り組みについて、第2回目は、株式会社SERB代表取締役の榎原健一氏に、大地震の発生時に木造住宅に居住する人命を守るための「耐震シェルター」の構造技術について紹介いただきました。

今後は、近鉄奈良駅からならまちに至る商店街を対象に、観光客の立寄る商業施設の現況を調査し、災害に強い観光地域づくりのための課題発見に取り組みます。



●生活観光情報発信講座A

この授業では、学生個人が関連授業を通して得た情報や興味・関心を持って発掘した情報を「生活観光情報」としてまとめ、HPを使って発信することを目的としています。

ゲストスピーカーに生活観光現代GPのHPデザインも手がけていただいたウェブデザイナー藤原純子氏を招き、インターネットやWebサイトの基礎知識、HP作成の技術について学んでいます。学生は、奈良の食、奈良町の庚申さん、ご当地キャラクターなどをテーマに情報収集・発信の準備を行っており、授業終了時には、現代GPのHPで、「学生がみた生活観光(仮)」として、成果物を公表する予定です。



●24時間テレビスタッフ体験講座

昨年、一昨年に引き続き、24時間テレビ奈良会場であるもちいどのセンター街を、地域の方に知ってもらい、商店街のみなさんとともに盛り上げていこうと、話し合いを重ね、様々なアイデアを出し合っています。

これまでも受講生が奈良会場の商店街スタッフTシャツのデザインをしてきましたが、今年度は全学生からデザイン案を募集します。これを通して、奈良女生にも、もちいどのセンター街が会場であることを知ってもらい、少しでも多くの学生に関わってもらおうと考えています。みなさんも是非イベント当日の8月30日・31日はもちいどのセンター街にお越しください。



<アドバンスプログラムの取組>

●奈良の食プロジェクト

平成20年3月まで実施してきた生活環境学部現代GPの「奈良漬プロジェクト」では、奈良漬を利用したレシピ開発、奈良のご当地アイス開発・商品化、レシピ集の発行などの取り組みを行ってきました。

生活観光現代GPでは、その取り組みをさらに発展し、奈良の食材を活かしたメニュー開発等を行う「奈良の食プロジェクト」を立ち上げました。メンバーは約40名で、大学生協のカフェで奈良漬アイスを使ったパフェを商品化してもらうためのパフェコンテストを実施したり、学園祭で奈良の食材を使ったカフェを出店するための準備を始めています。また、キャリアデザイン・ゼミナール「奈良の食をさぐる」とも連携し、大和野菜や大和茶など奈良特産の食材について生産地の見学、生産作業の体験なども実施し、積極的な取り組みを行っています。

●奈良町セミナーハウス活用 企画コンペの募集

毎年、奈良国立博物館で正倉院展が開催される10月下旬から11月上旬の約2週間、奈良女子大学奈良町セミナーハウスを一般公開して、学生の企画・運営によるイベントを実施しています。

今年は、イベントを企画・運営する主催者を全学の学生から募集し、コンペ方式で内容を決定しようと考えています。どのような企画が生まれるか楽しみにお待ち下さい。

●●● 編集後記 ●●●

前期の授業も中盤に入りましたが、全学で約500名近くの学生が現代GP科目を履修しています。ゲストスピーカーや見学を交えた多彩な授業で、様々な視点から奈良の生活観光を捉えています。秋の正倉院展の期間中には、これまでの取り組みの成果を地域や観光で奈良を訪れた皆さんに情報発信し、評価していただけるよう準備を進めていきたいと考えています。

